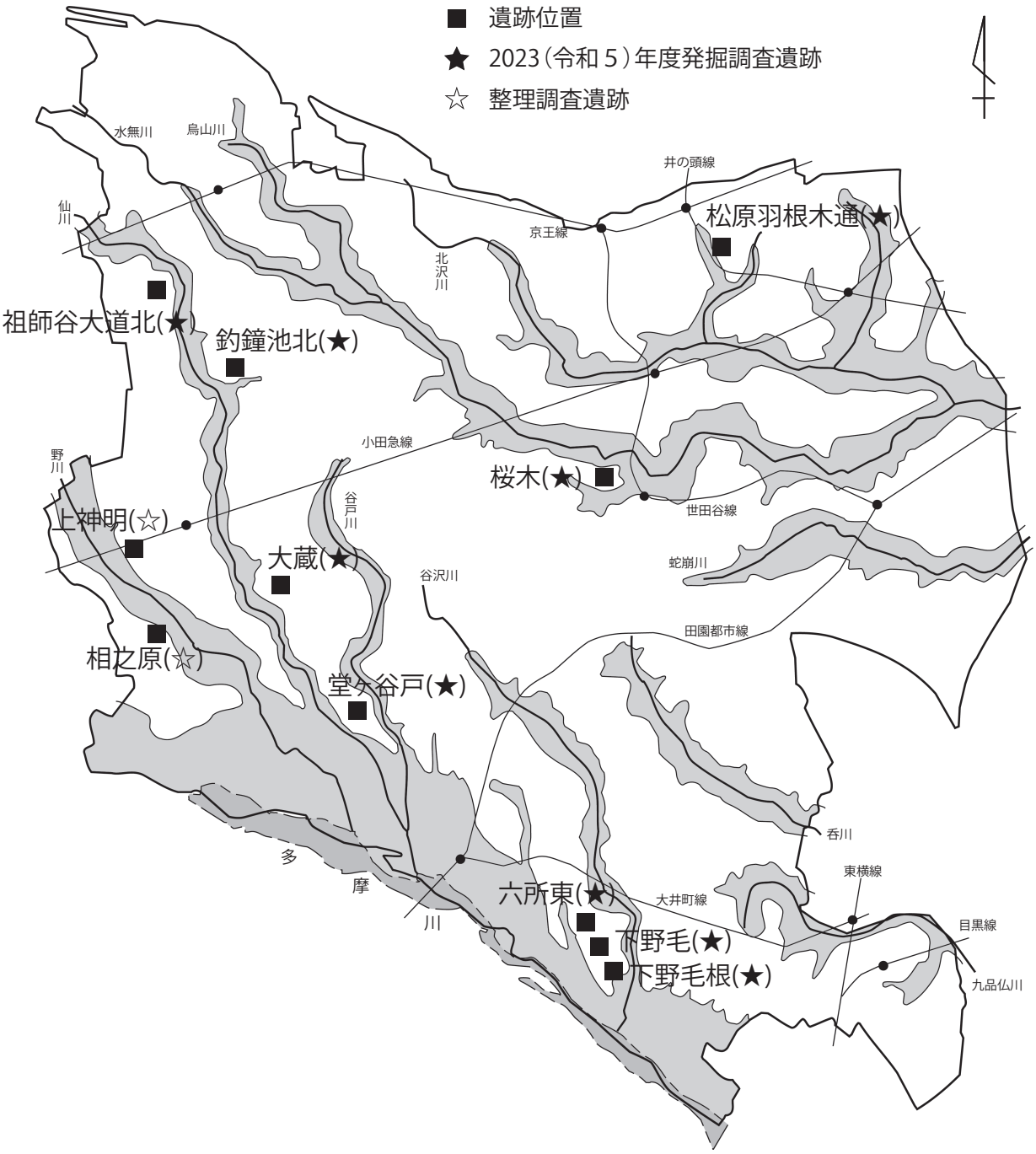
第 17 回　世田谷区遺跡調査・研究発表会

令和 6（2024）年 11 月 10 日
於：世田谷区教育会館



世田谷区教育委員会事務局　生涯学習課　文化財係

次　　第

１３：００　開会挨拶

１３：０５　講師紹介

１３：１０　特別講演「奈良・平安時代の世田谷」

講師：府中市郷土の森博物館館長　深澤靖幸先生

１４：４０　休憩

１５：００　報告１　世田谷区の埋蔵文化財　・・・・・・・・・・ 1

報告２　野毛 14 号墳・15 号墳 ・・・・・・・・・・・ 6

報告３　堂ヶ谷戸遺跡第 64 次調査・・・・・・・・・ 13

１６：０５　質疑応答

１６：２５　閉会挨拶

－遺物展示－

墨書土器（瀬田遺跡出土）３点

報告１　世田谷区の埋蔵文化財

（１）埋蔵文化財とは

【埋蔵文化財とは】

文字通り土地に埋蔵された文化財（有形文化財など）のことで、埋蔵文化財には、古墳・城跡・集落跡などの「遺跡」、それを構成する住居跡などの、その場から動かすことが困難な「遺構」、土器や石器などのように一般的に持ち運びが可能な「遺物」と呼ばれる。

世田谷区には、このような埋蔵文化財を包蔵している箇所が過去の調査で判っているだけで 300 ヵ所以上あり、これらの場所を、文化財保護法では「周知の埋蔵文化財包蔵地」と規定し、保存・保護を図っている。

【埋蔵文化財の保存】

本来、保存するということは遺跡をそのまま手をつけずに残すことが望ましいが、開発や宅地化により現状のままの保存が困難なときは、記録保存のための発掘調査を行う。発掘調査で明らかになった遺跡の情報は、発掘調査報告書や年報などによって周知されている。

－よくつかう埋蔵文化財単語－

縄文時代の時代区分→草創期・早期・前期・中期・後期・晩期

弥生時代の時代区分→前期・中期・後期

古墳時代の時代区分→前期・中期・後期・終末期

土抗とピット

→昔の人が地面に掘った円系や楕円形などの平面系をもつ穴。用途は様々で、中には墓として使用されているものもある。より小型のものをピットと呼んでいる。

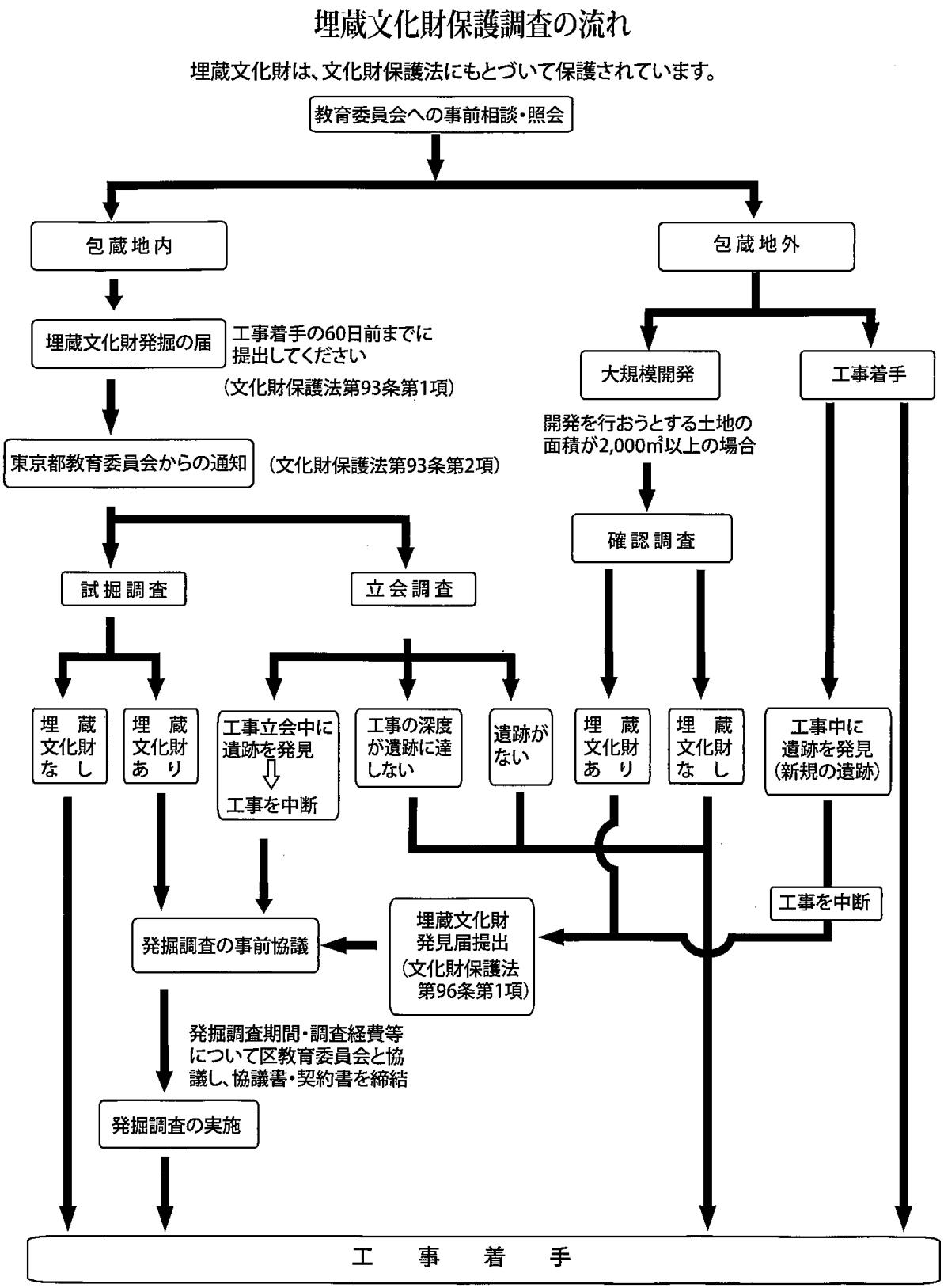
撹乱

→一度掘り起こされてうめられたり、植物の影響によってかき混ぜられた土の状況。

土器型式

→遺跡から出土した遺物の形や文様から一定の特徴を抽出したまとまりを「型式」といい、その型式が把握された遺跡名を冠した「型式名」（「勝坂式」や「加曽利 E 式」など）がつけられる。

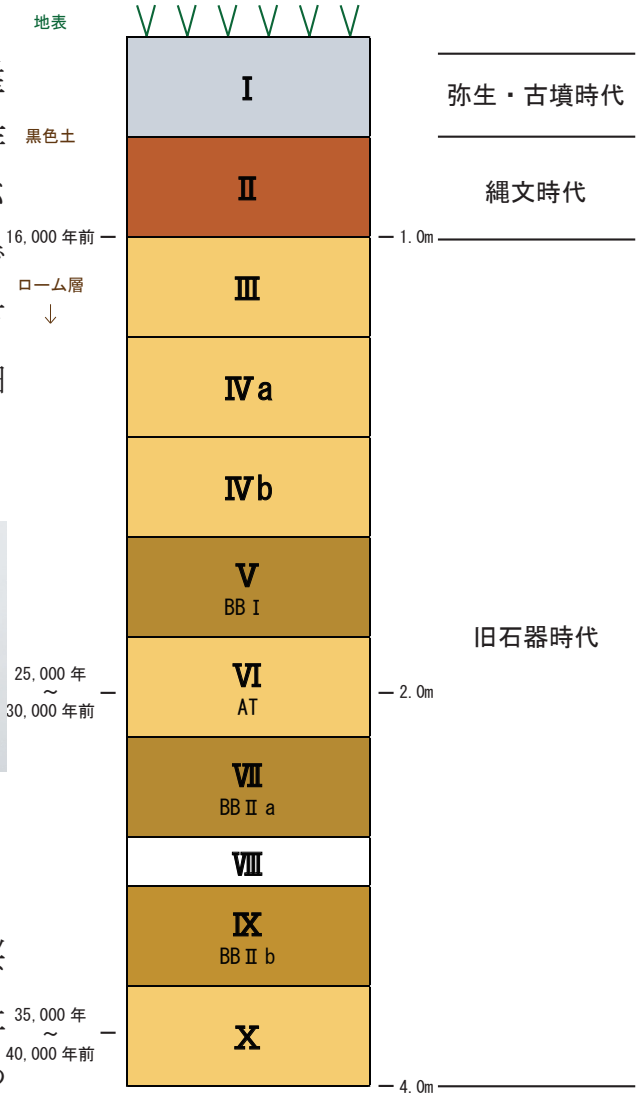
（２）埋蔵文化財保護調査の流れ



（３）世田谷区の遺跡と出土遺物

【旧石器時代】

旧石器時代の遺跡は多摩川に面した国分寺崖線や小河川の流域に分布しており、石器製作の跡（ブロック）や調理の跡（礫群）などが見つかっている。立川ローム層のⅩ～Ⅸ層では打製石斧や局部磨製石斧、Ⅵ層では黒曜石のナイフ形石器、Ⅲ層では槍先形尖頭器と細石刃がそれぞれ特徴的に出土する。



ナイフ形石器（下山遺跡）

槍先形尖頭器（廻沢北遺跡）

【縄文時代】

縄文時代中期中葉～末葉の集落遺跡である桜木遺跡では、これまでの調査で多くの住居址が発見された。昨年度には第 14 次調査が行われ、中期後葉の加曽利Ｅ３式土器を主体とする遺物や土抗･ピットが見つかっている。堂ヶ谷戸遺跡や松原羽根木通遺跡などからも多くの縄文土器やヒスイ製の装身具などが出土している。

加曽利Ｅ式土器（堂ヶ谷戸遺跡）

勝坂式土器（堂ヶ谷戸遺跡）

【弥生時代】

弥生時代後期には多摩川流域と目黒川流域に環濠集落があらわれる。

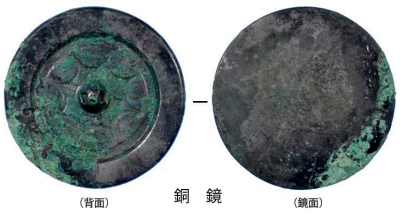
また、堂ヶ谷戸遺跡、喜多見陣屋遺跡などからは在地系の弥生土器のほか、吉ヶ谷式土器といった埼玉県北西部の土器や中部高地系、東海西部系など、他地域の土器が見つかっており、当時の地域間交流がうかがえる。

東海・相模の影響を受けた土器（奥）と
吉ヶ谷式土器（手前）（堂ヶ谷戸遺跡）

【古墳時代】

古墳時代になると、多摩川流域の砧・喜多見地域と野毛・等々力地域に４世紀頃から終末期の横穴墓に至るまで、古墳が連綿と築かれる。集落は台地上の河川沿いに多く分布する。

中でも５世紀初頭に築かれた野毛大塚古墳は大型の帆立貝型前方後円墳であり、鏡や武器などといった多くの副葬品が納められていることなどから、南武蔵を治めた有力な権力者の墓であったと考えられている。野毛大塚古墳の墳丘は東京都史跡に、出土品は国の重要文化財に指定されている。



野毛大塚古墳出土品
（鉄製武器武具（左）・銅鏡（右上）・
石製模造品（右中央）・埴輪（右下））

【歴史時代】

古代の遺跡は多摩川沿いに集中して分布している。瀬田遺跡からは腰帯（ベルト）の飾り金具など、奈良時代の官人が身につけた品が出土している。瀬田遺跡、喜多見中通遺跡などからは奈良・平安時代の墨書土器や瓦が見つかっており、古代寺院が存在した可能性を示す。

また、喜多見陣屋遺跡などからは火葬墓骨蔵器が見つかっており、埋葬方法の変化が読み取れる。

中世になると、堂ヶ谷戸遺跡から多くの板碑が出土しており、中世寺院の存在も推測される。

墨書土器（瀬田・喜多見中通・下山・堂ヶ谷戸遺跡）

銙帯金具（右下）・刀子（上）・砥石片（左下）
（瀬田遺跡）

阿弥陀一尊種子板碑（堂ヶ谷戸遺跡）

【参考文献】
世田谷区郷土資料館 2024『世田谷区の歴史と文化 世田谷区郷土資料館展示ガイドブック』

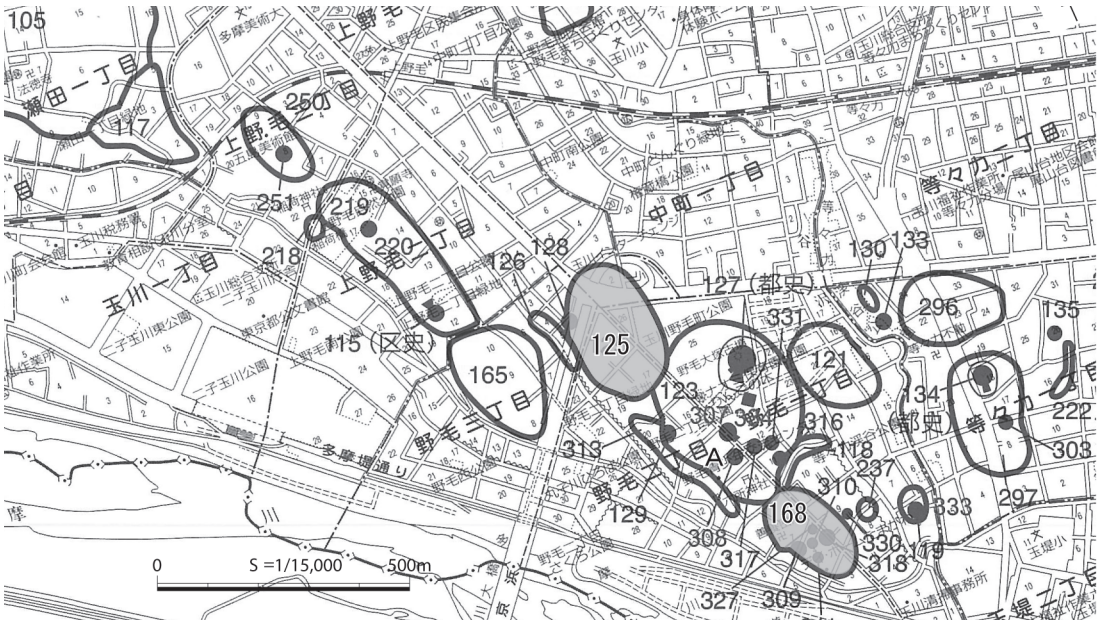
報告２　野毛 14 号・15 号墳

【遺跡概要と周辺の遺跡】

野毛 14 号墳は、世田谷区野毛二丁目に所在する六所東遺跡（遺跡番号 125）の第５次調査中に発見された。六所東遺跡は標高 38 ｍの武蔵野段丘面上、西側に谷が入り込む舌状台地の付け根に立地する、縄文時代から近世にわたる複合遺跡である。

野毛 15 号墳は、六所東遺跡のすぐ南、世田谷区野毛一丁目に所在する下野毛根遺跡（遺跡番号 168）の第６次調査中に発見された。下野毛根遺跡は、六所東遺跡も立地する武蔵野段丘面上、舌状台地の先端部下位部分、標高 21m に立地している。縄文時代から近世にわたる複合遺跡である。

両遺跡の周辺は、遺跡が密集している地域である。両遺跡と同じ舌状台地上には、下野毛遺跡(123)などの集落遺跡や、野毛大塚古墳(127:都史跡)を最大として 20 基以上からなる野毛古墳群(A)も存在し、近年も野毛 13 号墳（334）のような新たな古墳が検出されている。さらに台地斜面には、下野毛岸横穴墓群（126)、野毛大原横穴墓群（313)、谷川上横穴墓群（118)、等々力渓谷横穴墓（222)といった横穴墓群が存在する。



遺跡番号	遺　跡　名
105	瀬田遺跡・瀬田城跡
115	上野毛稲荷塚
116	谷久保遺跡
117	鎌ヶ谷遺跡
118	谷川上横穴墓群
119	天神山古墳
121	谷川上遺跡
123	下野毛遺跡
125	六所東遺跡
126	下野毛岸横穴墓群
127	野毛大塚古墳
128	スクモ塚
129	西岡７号墳
130	等々力渓谷横穴墓群
131	西岡３号墳
132	西岡４号墳
133	西岡９号墳

遺跡番号	遺　跡　名
134	御岳山古墳
135	大日塚
165	大原遺跡
168	下野毛根遺跡
216	瀬田中学校遺跡
217	谷沢台遺跡
218	稲荷坂遺跡
219	稲荷丸遺跡
220	稲荷丸塚
222	等々力根横穴墓
237	下野毛原稲荷遺跡
250	稲荷丸北遺跡
251	稲荷丸古墳
296	等々力原遺跡
297	等々力根遺跡
303	等々力根１号墳
307	野毛２号墳

遺跡番号	遺　跡　名
308	野毛３号墳
309	野毛４号墳
310	野毛５号墳
311	野毛６号墳
313	野毛大原横穴墓群
316	野毛７号墳
317	野毛８号墳
318	野毛９号墳
327	野毛 10 号墳
330	野毛 11 号墳
331	野毛 12 号墳
333	天神山遺跡
334	野毛 13 号墳
古墳群	
A	野毛古墳群

六所東遺跡・下野毛根遺跡と周辺の遺跡

【野毛古墳群の過去の調査履歴】

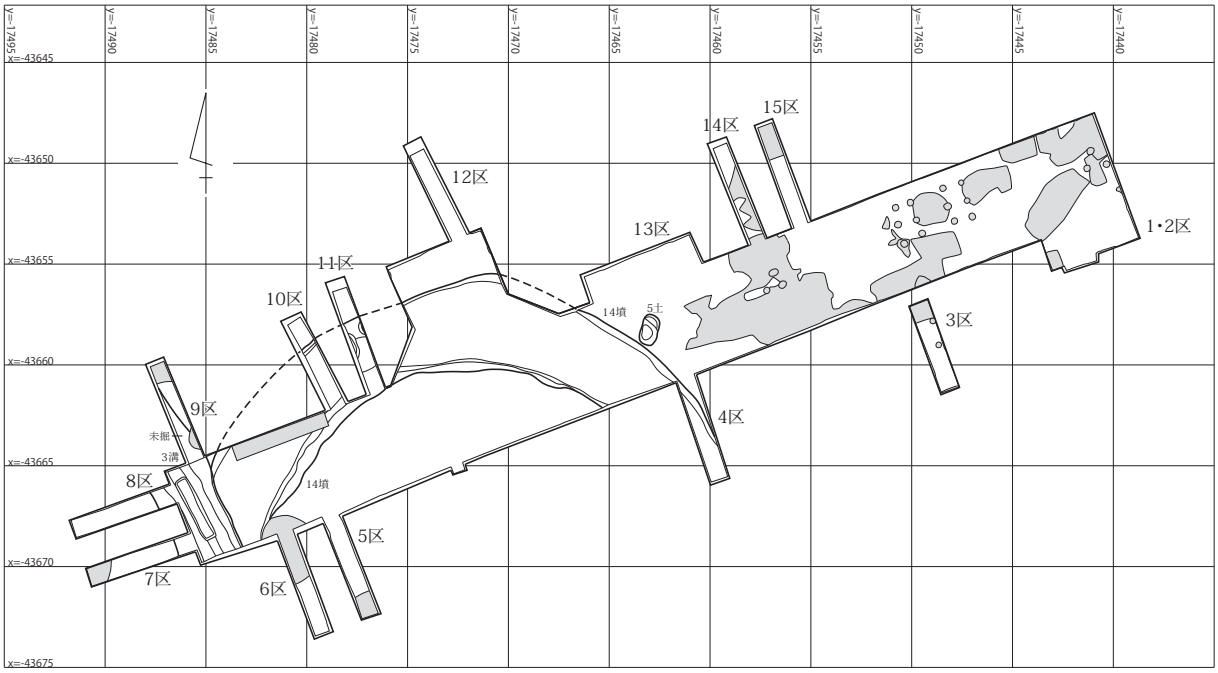
野毛古墳群は、上野毛から尾山台にかけて分布する、５世紀から６世紀にかけて築造された帆立貝形古墳、造出付円墳、円墳で構成される古墳群である。

野毛大塚古墳（127：全長 82 mの帆立貝形古墳、5 世紀初頭）を初現、中心として、同一舌状台地の西縁と南側に小円墳群が集中する。近年の発掘調査では、野毛大塚古墳のすぐ南側に野毛 13 号墳（334：一辺 20 mの方墳、５世紀前葉）が発見され、野毛２号墳（307：全長 34.2 mの帆立貝形古墳）の前方部前端が確認され、全長が確定するなどの成果がある。

野毛古墳群分布図

【野毛 14 号墳】

墳　形：円墳（推定内径 22.8 m、周濠外径 28.8 m）
主体部：削平されており不明
遺　物：土師器、須恵器、円筒埴輪、形象埴輪（人物、家形）
時　期：６世紀前半



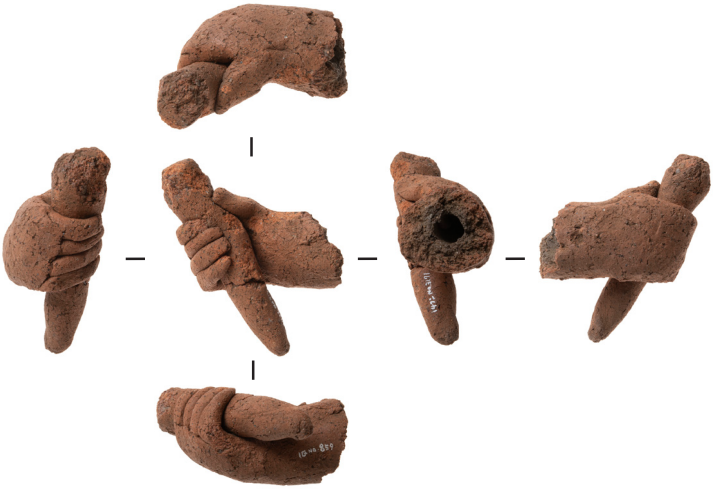
六所東５次調査　古墳時代全体図

野毛 14 号墳周濠全景

人物埴輪出土状況

須恵器

円筒埴輪



人物埴輪

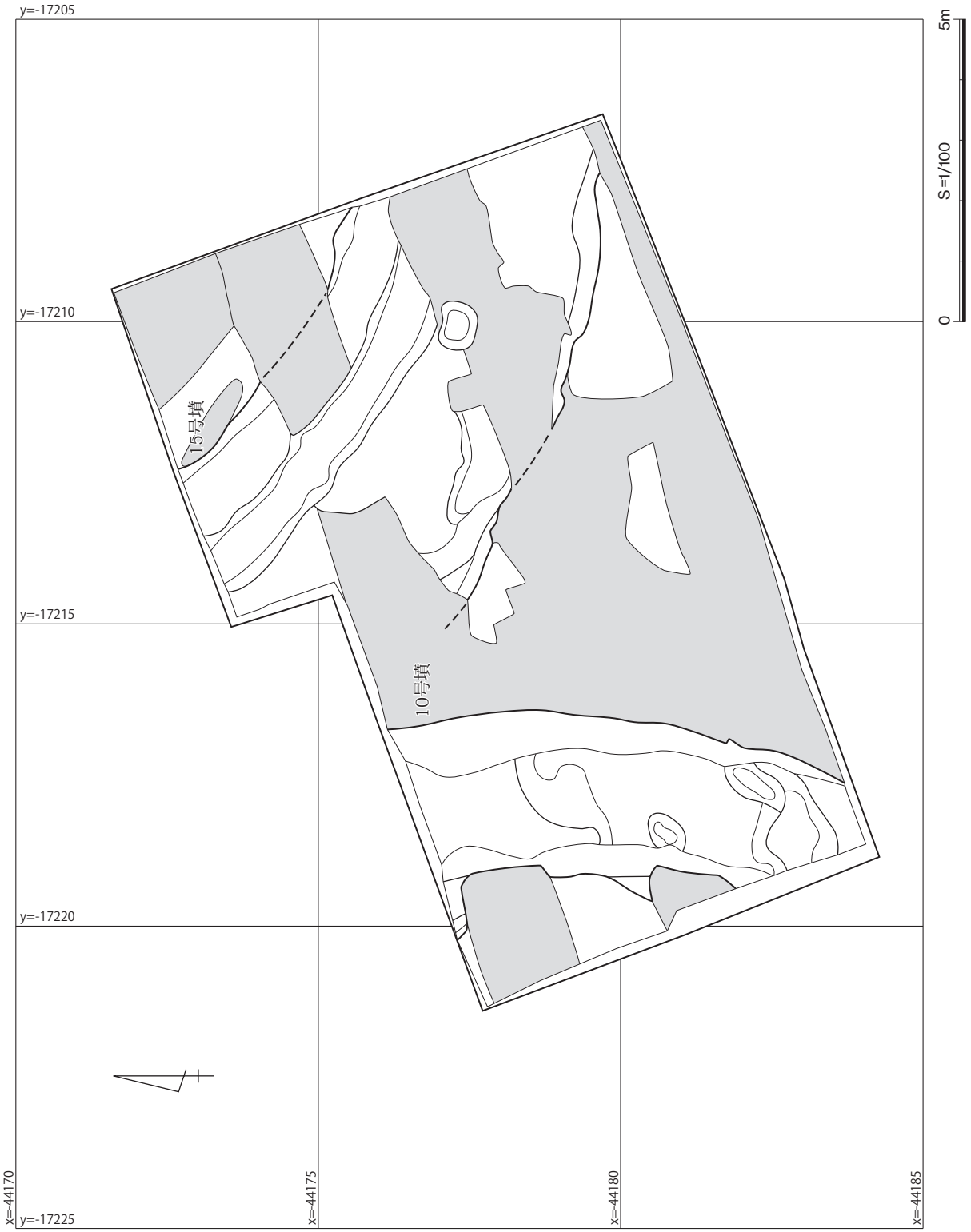
【野毛 15 号墳】

墳　形：円墳（推定内径 15.4 m、周濠外径 24.0 m）

主体部：削平されており不明

遺　物：土師器、須恵器、円筒埴輪、形象埴輪（人物、馬形）

時　期：５世紀末葉



下野毛根６次調査　古墳時代全体図

１５号墳周濠全景（東から）

土師器出土状況

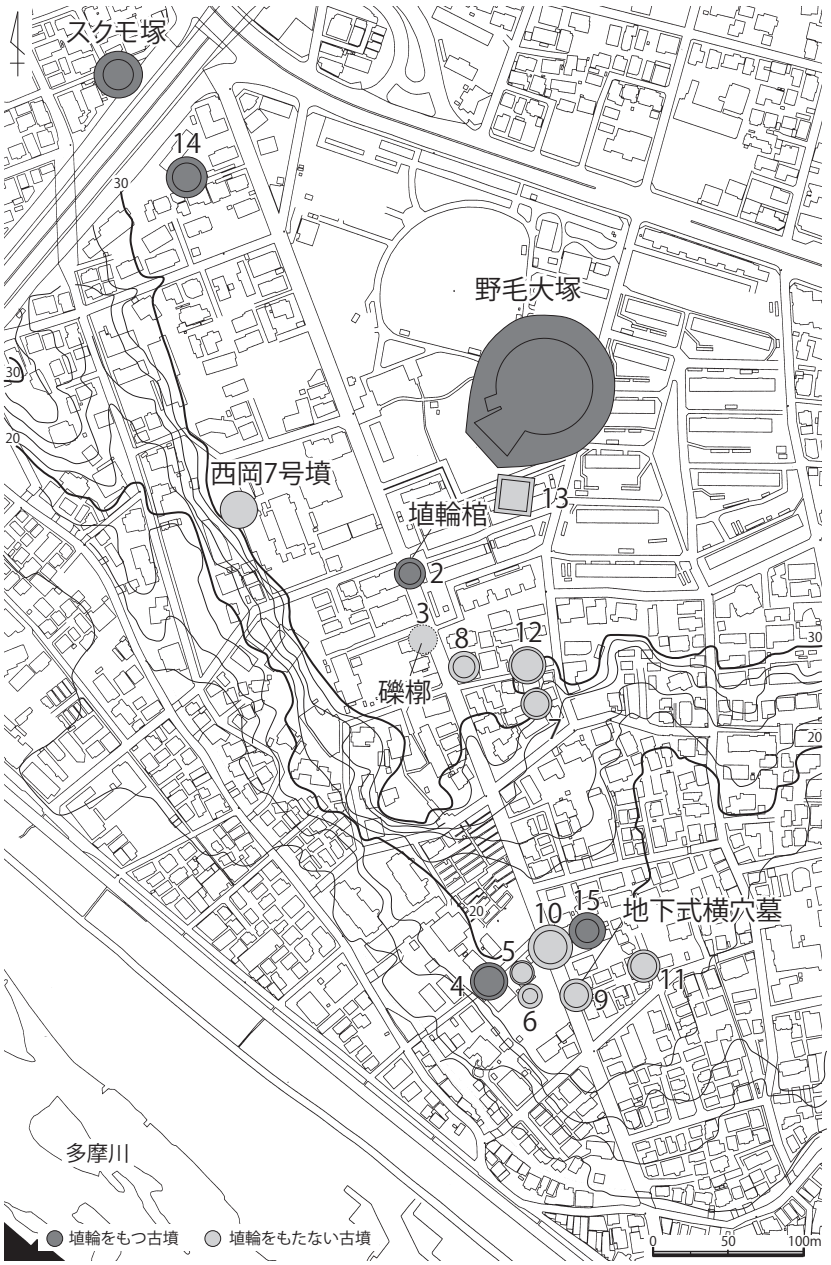
土師器広口壺・坏

馬形埴輪・尻尾

【まとめ】

出土した土器、埴輪の年代から、野毛 14 号墳は 6 世紀前半、野毛 15 号墳は 5 世紀末葉に築造された円墳である。いずれも野毛大塚古墳を基部に有する同一台地上に立地するが、14 号墳の立地はこれまでに古墳が希薄であった舌状台地西縁であり、15 号墳は南側の一段下がった平坦面に、他古墳と重複することなく群集している。この舌状台地上の西・南側に集中する古墳群は、多摩川と野毛大塚古墳を意識して築造されたと考えられる。

14 号墳の人物埴輪は、その製作技法から埼玉の比企地方で生産され。一方 15 号墳の人物埴輪は異なる技法で製作されており、生産地域が異なるものと考えられる。



野毛古墳群周辺分布図

報告 3　堂ヶ谷戸遺跡第 64 次調査

【遺跡の概要と周辺の遺跡】

堂ヶ谷戸遺跡は、世田谷区岡本一丁目から三丁目に所在する旧石器時代から近世に至る複合遺跡で、多摩川に注ぐ支流、谷戸川と仙川の合流点に向かって張り出した台地の先端部から基部にかけて立地している。遺跡は標高約 38 mの武蔵野段丘上に立地し、範囲は最大で東西約 380 m、南北約 540 mと推定されている。

本遺跡の周辺は遺跡が密集する地域の一つである。武蔵野段丘上の遺跡としては大蔵遺跡(30:旧石器～中近世)、総合運動場遺跡（32：縄文、古墳)、下山北遺跡（112：旧石器～古墳、中近世)、下山遺跡（107:旧石器～中近世）などの集落が形成され、立川段丘上には田直遺跡（281:旧石器、縄文、古代～中近世)、鎌田遺跡（38：縄文、古墳～中近世）などの集落が展開し、区内では唯一の低湿地遺跡である岡本前耕地遺跡(288:縄文～中近世)も崖線下に所在する。また、遺跡の立地する台地斜面には、堂ヶ谷戸横穴墓群（50)、岡本原横穴墓群（51)、谷戸川対岸には岡本谷戸横穴墓群（49）などの横穴墓群がつくられ、先端部には古墳の可能性が高い弁天塚・天神塚（199)、本遺跡内には堂ヶ谷戸 1 号墳（272）が築造されている。さらに、本域には砧古墳群と総称される古墳群が築造され、崖線上には砧中学校古墳群（A)、大蔵古墳群（B)、殿山古墳群（C）が、崖線下には喜多見古墳群（D）などの支群が形成されている。

281 号住居跡東側全景

281 号住居跡西側全景

281 号住居跡出土土器

遺跡番号	遺　跡　名	遺跡番号	遺　跡　名	遺跡番号	遺　跡　名	遺跡番号	遺　跡　名
8	砧小前横穴墓群	107	下山遺跡	196	安藤家墓地跡	280	喜多見中通遺跡
9	砧中学校遺跡	108	玉川神社古墳	197	石井土南横穴墓	281	田直遺跡
18	下神明遺跡	110	滝ケ谷横穴墓群	199	弁天塚・天神塚	285	宇奈根本村遺跡
19	上神明遺跡	111	将監塚(西岡2号墳)	215	将監山遺跡	286	上野田横穴墓群
20	上神明横穴墓群	112	下山北遺跡	232	松場遺跡	288	岡本前耕地遺跡
21	成城学園横穴墓群	113	玉川病院下横穴墓群	233	三島野屋敷・下覚東南遺跡	322	岡本原南遺跡
22	東之原遺跡	114	玉川神社西横穴墓	235	相之原遺跡	323	下山2号墳
23	宮之原遺跡	153	成城南遺跡	245	石井土塚	324	下山3号墳
29	中野田遺跡	154	成城駅遺跡	246	嘉留多遺跡	332	殿山横穴墓群
30	大蔵遺跡	155	不動橋・不動坂遺跡	247	下野田遺跡		
31	大蔵団地横穴墓群	159	喜多見陣屋遺跡	248	岡本原遺跡		
32	総合運動場遺跡	160	東山野遺跡	249	瀬田上原遺跡		
36	厚生年金センター遺跡	183	祖師南遺跡	258	向野田遺跡		
37	殿山遺跡・大蔵館跡	186	長坂遺跡	264	喜多見清水遺跡		
38	鎌田遺跡	188	中の島遺跡	265	下野田山遺跡		
45	西谷戸遺跡・西谷戸横穴墓群	189	不動橋横穴墓跡	266	下野田1号・2号墳		
48	上之台遺跡	190	中神明遺跡	268	中神明横穴墓群		
49	岡本谷戸横穴墓群	191	前河内遺跡	269	下野田不動遺跡		砧　古　墳　群
50	堂ヶ谷戸横穴墓群	192	大河原遺跡	271	西谷戸遺跡	A	砧中学校古墳群
51	岡本原横穴墓群	193	宇奈根河原遺跡	272	堂ヶ谷戸1号墳	B	大蔵古墳群
52	**堂ヶ谷戸遺跡**	194	石井土遺跡	273	下山1号墳	C	殿山古墳群
105	瀬田遺跡・瀬田城跡	195	西山野北遺跡	274	滝ケ谷遺跡	D	喜多見古墳群

堂ヶ谷戸遺跡と周辺の遺跡

【発掘された主な遺構と遺物】

遺構：縄文時代中期中葉～後葉の住居跡 11 軒（7 次調査の 2 軒を含む）、土坑 16 基、ピット 38 本

弥生時代後期の住居跡 1 軒、弥生時代後期～古墳時代初頭の方形周溝墓 1 基、竪穴 1 基、土坑 1 基、ピット 2 本

遺物：旧石器石器、縄文土器・石器・土製品、弥生土器、土師器

d　　堂ヶ谷戸遺跡と調査区の位置

調査区東側全景

調査区西側全景

Y=-19650
Y=-19645
Y=-19640
X=-41700
X=-41705
X=-41710
X=-41715
283号住居跡
284号住居跡
288号住居跡
282号住居跡
286号住居跡
289号住居跡
21号住居跡
287号住居跡
290号住居跡
23号住居跡
285号住居跡
1号炉
2号炉
1号土坑
2号土坑
5号土坑
6号土坑
7号土坑
8号土坑
9号土坑
10号土坑
12号土坑
13号土坑
14号土坑
15号土坑
16号土坑
17号土坑
2P
5P
7P
8P
9P
10P
11P
12P
13P
14P
15P
16P
17P
18P
19P
20P
21P
22P
23P
24P
25P
26P
27P
28P
29P
30P
31P
32P
33P
34P
35P
36P
37P
38P
39P
40P
4P
6P
0
S=1/100
5m

縄文時代の遺構位置図

弥生時代後期～古墳時代初頭遺構位置図

23 号住居跡全景

23 号住居跡炉跡（石囲い埋甕炉）

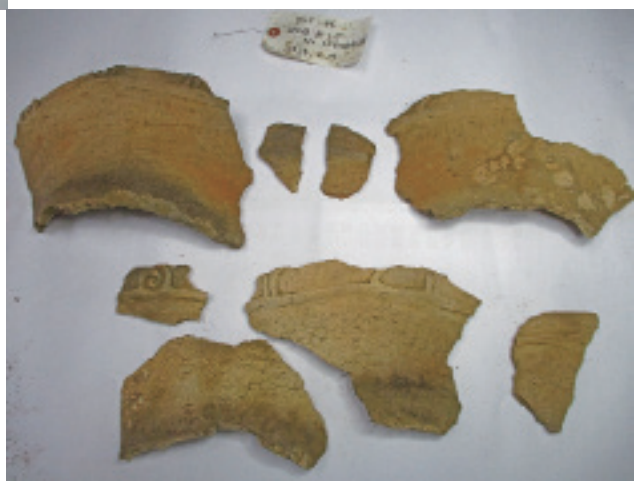
282 号住居跡全景

282 号住居跡入口部埋設土器

282 号住居跡入口部埋設土器

288 号住居跡全景

288 号住居跡石囲い埋甕炉



288 号住居跡炉体土器

2 号方形周溝墓全景

【まとめ】

今回の調査で検出した遺構は、縄文時代中期中葉～後葉の住居址 11 軒、土坑 16 基、ピット 38 本､弥生時代後期の住居址 1 軒､弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴･方形周溝墓･土坑各 1 基、ピット 2 本である。また、遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、石器などが出土している。

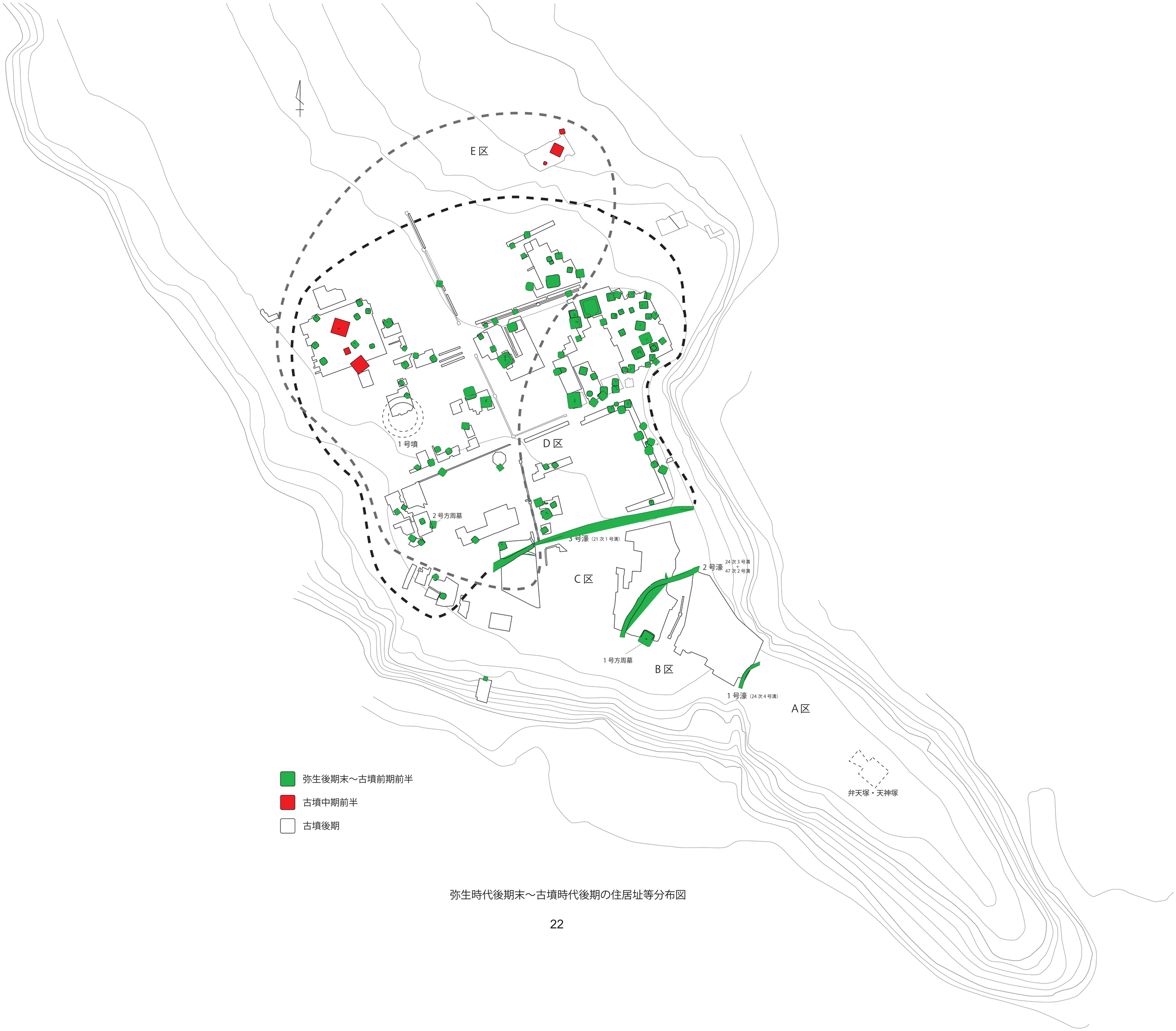
旧石器時代では、Ⅳ層中より剝片が 2 点出土したが、ブロック・礫群といった遺構は検出されなかった。

縄文時代では、検出した住居址の帰属する時期が概ね勝坂 3 式期から加曽利 E2 式期と考えられる。時期がわかる住居址としては 7 次調査の 23 号住居址が勝坂 3 式期、282 号住居址が加曽利 E2 式期、288 号住居址が加曽利 E1 式期で、その他の住居址については詳細な時期は検討してなく断定はできないが概ね加曽利 E1 から E2 式の範疇に収まると考えられる。

今回の調査地点は、本遺跡における縄文時代中期中葉～後葉の環状集落の西側密集域に該当する。そのため、検出した住居址は調査区内において弧状に展開しており、土坑は調査区中央から東側にやや多く分布し、墓域の一端が明らかになったといえる。

弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構の中で、特筆すべきは方形周溝墓が検出されたことである。方形周溝墓は第 47 次調査に次いで 2 例目である。方形周溝墓の全体を調査したわけではないが、1 号方形周溝墓と同じ全周するタイプであると考えられる。『堂ヶ谷戸遺跡Ⅵ』の中で述べられているように、本遺跡の墓域は集落自体が廃絶して墓域化していると推測されている。

今後の調査において、縄文時代中期中葉～後葉の様相、弥生時代後期～古墳時代初頭の墓域などについて明らかにしていきたい。



弥生時代後期末～古墳時代後期の住居址等分布図

縄文時代中期中葉～後葉の住居址分布図